



T-GEx

世界的課題を解決する知の「開拓者」育成事業
Tokai Pathways to Global Excellence

令和 6 年度 年次報告書

目次

1	はじめに	3
2	育成対象者	
2-1	令和6年度採用者	5
1)	T-GEEx フェロー	
2)	T-GEEx アソシエート	
3)	T-GEEx 企業アソシエート	
2-2	令和6年度終了者	6
1)	T-GEEx フェロー	
2)	T-GEEx アソシエート	
3)	T-GEEx 企業アソシエート	
3	育成プログラム	
3-1	トランスファラブルスキル	7
3-2	e-ポートフォリオ	9
3-3	リトリート合宿	9
3-4	研究成果エキシビション	10
3-5	ロールモデルセミナー	10
3-6	フライブルグ大学との国際ワークショップ	11
3-7	学術メンター・企業アドバイザー	12
1)	T-GEEx フェロー	
2)	T-GEEx アソシエート	
3)	学術メンターに対するアンケート調査	
3-8	スタートアップ研究費	14
3-9	テーラーメイド型研究費	14
3-10	シーズ共同研究費	15
3-11	国際力強化支援	15
3-12	その他支援	16
3-13	育成プログラムに関するアンケート調査	16
4	モニタリング	
4-1	採用した T-GEEx フェローの属性一覧	18
4-2	T-GEEx フェローの育成トラック選択と目標達成状況	18
4-3	T-GEEx フェローの研究成果の創出状況	19

5	運営体制	
5-1	実施機関	20
1)	実施体制	
2)	運営関係者	
5-2	連携機関	20
1)	連携体制	
2)	事業推進委員	
5-3	委員会等	21
1)	知の「開拓者」コンソーシアム総会	
2)	事業推進委員懇談会	
3)	運営協議会	
4)	実務委員会	
5)	連携会議	
6)	定例会議	
5-4	外部評価委員および外部評価委員会	22
6	寄附金	24

1 はじめに

2021 年 10 月に立ち上げられた世界的課題を解決する知の「開拓者」育成事業（Tokai Pathways to Global Excellence, T-GEEx）の 2024 年度報告書をここにお届けいたします。この間、T-GEEx の事業展開にご尽力くださった名古屋大学と岐阜大学、連携学術機関、連携企業の関係者の皆さまには改めてお礼を申し上げます。そして、何よりも、種々のセミナーや催しなどで企画の段階からアクティブに関与し、T-GEEx の事業を豊かなものにしてくれた T-GEEx フェローと T-GEEx アソシエート、T-GEEx 企業アソシエートには心より感謝したいと思います。

2024 年度が始まるとともに、新たに 5 名の T-GEEx フェロー（うち岐阜大学所属 1 名、合計 22 名）と 5 名の T-GEEx アソシエート（合計 13 名）、T-GEEx 企業アソシエート 4 名（合計 9 名）が加わりました。2024 年度をもって、本事業に集う若手研究者は総勢 44 名にのぼり、東海地域における優秀な若手研究者のハブであると言えるような規模にまで成長することができました。特に、企業アソシエートの増加によって、T-GEEx に集う若手研究者の多様性は確実に拡大しています。他方で、複数のフェローが他大学にポストを獲得したことで T-GEEx を「卒業」していきました。これまで一緒に活動してきた若手研究者が T-GEEx から離れていったことに一抹の寂しさを感じるとともに、こうした異動を通じて、T-GEEx の活動もまたダイナミックに変化し、日本各地に伝播する可能性が拓け、新たな展開のシーズが生まれることも期待されます。

事業開始 4 年目となる 2024 年度は、リトリート合宿や研究成果エキシビションといった恒例のイベントのほか、初めて試みとして、外部評価委員会と共に国際シンポジウムを開催いたしました。幸いなことに、海外の研究機関を拠点とする研究者を含めて全委員が出席して開催することができた外部評価委員会では、これまでの T-GEEx の活動を総括し、プログラムの運営は全体として順調に進んでいるという講評を頂きました。その上で、以前から指摘されていた国際力強化に加え、予算の確保や認知度の向上など、今後の事業運営への課題を明確に析出する有意義な機会となりました。国際シンポジウムでは、学部評価委員であるロジャー・グッドマン教授（オックスフォード大学）と蔡宜芳ディスティンクティブシュドリサーチフェロー（台湾中央研究院）が登壇し、大学経営や若手研究者支援策だけではなく、国際的に活躍する研究者としてのご経験、研究の進め方のノウハウ、研究者としての日常生活のマネジメント、キャリア形成といった問題に関してざっくばらんにお話下さり、若手研究者との間で活発なやりとりが交わされました。

2024 年度は実際、一年を通じて、事業運営上の様々な課題に取り組み、改善を図る努力を続けた年でした。国際力強化に関しては、円安や物価高という世相を反映し、若手研究者の海外での研究活動の遂行が一層難しくなる中で、「国際誌への論文投稿」、「外国渡航旅費」、「国際シンポジウムやワークショップ開催費」に用途を限定した「国際力強化支援」助成制度を T-GEEx フェローに対して導入したところ、大いに役に立ったようでした。また、研究成果エキシビションでの研究紹介を英語で行うなど、T-GEEx の活動の英語化も進んでおり、現在では、当初は心配の声も上がっていた企業アソシエートを含めて、英語での研究交流を適宜実施しています。こうした事業の改善には、連携学術機関や連携企業の事業推進委員の方々とのオンラインでの面談や事業推進委員懇談会、コンソーシアム総会といった機会でご頂くアドバイスをなるべく反映するようにしております。最後に、長年懸案であったメンタリング制度の大規模な改革も行い、2025 年度からは新しく設置した「アドバイザー」を含めた制度として実施してまいります。

2024 年度の終了が見えてきた時期になって、文部科学省から突然、2026 年度の本事業の予算が予算編成上の都合で減額されるという通知がありました。外部評価委員会から予算の増額も視野に入れた事業運営のアドバイスがあったこともあり、さらには、国立大学の予算自体が逼迫する状況において、予算減額という問題への対応は困難を極め、現在に至るまで継続的に対応策を協議しています。幸いにも、2024 年度は連携企業のダイドー社様からご寄付を頂くことができましたが、事業予算の確保は今後の本事業の行く末がかかったクリティカルな課題として対応していかなければならないと考えております。

以上のように、不確定要素が存在する中での事業運営が今後も続くとは考えられますが、T-GEEx では本事業に集う優秀な若手研究者がそのポテンシャルを十全に発揮できるような形での研究者としての成長を支援するという目的実現のための努力を続けていく所存でございます。この報告書を通じて、T-GEEx フェロー／アソシエート／企業アソシエートの 2024 年度の活躍を垣間見て頂けたら幸いです。

令和 7 年 10 月

世界的課題を解決する知の「開拓者」育成事業

プログラムマネージャー

武田 宏子

2 育成対象者

2-1 令和6年度採用者

1) T-GEEx フェロー

令和6年度のT-GEExフェローは、名古屋大学と岐阜大学で公募し、各大学における学内選考を行った後、実務委員会（選考・評価委員会）で最終選考（2段階選抜）した。最終選考はオンラインによる総合面接で行い、審議を経て表2-1-1に示した5名の新規採用を決定した。

表 2-1-1 令和6年度に新規採用された T-GEEx フェロー（採用時）

採用年度	大学		所属部局	研究テーマ名
	氏名	職名		
令和6年度	名古屋大学	伊吉 祥平	高等研究院/大学院医学系研究科 YLC特任助教	リボクオリティから解き明かす痩せ/肥満とウィメンズヘルス
	名古屋大学	李 乃琦	高等研究院/大学院人文学研究科 YLC特任助教	文理融合研究に基づくインド文化圏と漢字文化圏交流史の再構築
	岐阜大学	柘植 紀節	高等研究院/工学部 G-YLC特任助教	多波長観測で探る星間ガスの進化 -星の誕生から終焉まで-
	名古屋大学	上野 藍	大学院工学研究科 講師	バイオデザイン思考に基づく発展途上国支援のためのスキンデバイスの創出
	名古屋大学	宇佐見 享嗣	高等研究院/トランスフォーマティブ 生命分子研究所 YLC特任助教	昆虫の生物機能を巧みに用いた資源循環型モノづくりの実現

なお、令和6年度の採用倍率は約4倍で、例年並みであった。

2) T-GEEx アソシエート

令和6年度のT-GEExアソシエートは、6つの連携学術機関において募集と推薦者の選考を実施いただき、実務委員会（選考・評価委員会）における応募書類の確認を経て、承認した。そして、表2-1-2に示した新規採用者3名を含む合計11名の採用を決定した。なお、採用されたT-GEExアソシエートには、名古屋大学高等研究院客員研究員の身分を付与し、東海国立大学機構の設備・機器共用システムや図書館の利用も可能とした上で育成を開始した。

表 2-1-2 令和6年度に新規採用された T-GEEx アソシエート（採用時）

採用年度	連携学術機関		所属部局	専門分野
	氏名	職名		
令和6年度	名城大学	黒川 裕介	農学部 助教	作物学、植物遺伝育種学
	南山大学	南 翔一朗	人文学部 講師	宗教哲学
	豊橋技術科学大学	田尻 大樹	大学院工学研究科 助教	情報通信、機械力学、メカトロニクス、振動工学

3) T-GEEx 企業アソシエート

令和6年度のT-GEEx企業アソシエートは、コンソーシアムに参画いただいている11の連携企業に対して募集を行い、推薦者の選考を依頼した。実務委員会（選考・評価委員会）における応募書類の確認、承認を経て、表2-1-3に示した3機関からの新規採用者4名を含む合計5名の採用を決定した。なお、採用されたT-GEEx企業アソシエートに対しても、名古屋大学高等研究院客員研究員の身分を付与し、東海国立大学機構の設備・機器共用システムや図書館の利用も可能とした上で育成を開始した。

表2-1-3 令和6年度に新規採用されたT-GEEx企業アソシエート（採用時）

採用年度	連携企業 氏名	所属部署 職名	主な業務内容、研究内容
令和6年度	トヨタ自動車株式会社	R-フロンティア部	材料シミュレーション、マテリアルズ・インフォマティクス
	松田 健郎	主任	
	株式会社デンソー	AI研究部	設計・製造・物流に対する数値最適化の応用研究
	山本 真之	担当課長	
	株式会社豊田中央研究所	量子デバイス研究領域	マイクロ・ナノ機械振動、 弾性波デバイスの作製と物理現象の実証 外傷性脳傷害予測のための脳有限要素モデル開発、 デジタルヒューマンモデル開発
	舟山 啓太	研究員	
	株式会社豊田中央研究所	ヒューマンサイエンス研究領域	
	渥美 範俊	研究員	

2-2 令和6年度終了者

1) T-GEEx フェロー

T-GEEx フェローの育成期間は基本5年間に設定しているが、転出により令和6年度中に表2-2-1に示した2名の育成を終了した。

表2-2-1 令和6年度中に育成を終了したT-GEEx フォロー

育成終了月	大学 氏名	所属部局 職名	採用年度	育成期間	事由
令和6年8月	名古屋大学 木村 康裕	大学院工学研究科 助教	令和5年度	1年5カ月	転出
令和7年3月	名古屋大学 樋口 諒	高等研究院/大学院人文学研究科 YLC特任助教	令和3年度	3年3カ月	転出

なお、プログラムの所定の要件を満たして終了した樋口諒 YLC 特任助教には Certificate of Completion が、プログラムの中で顕著な活躍が認められた木村康裕助教には Certificate of Outstanding Achievements が各々授与された。

2) T-GEEx アソシエート

T-GEEx アソシエートの育成期間は1年以上5年までに設定しており、転出などの事由により令和6年度中に表2-2-2に示した3名の育成を終了した。

表2-2-2 令和6年度中に育成を終了した T-GEEx アソシエート

育成終了月	大学 氏名	所属部局 職名	採用年度	育成期間
令和7年3月	中部大学 田中 秀紀	人文学部心理学科 教授	令和4年度	3年
令和7年3月	名城大学 近澤 未歩	農学部応用生物化学科 助教	令和4年度	3年
令和7年3月	南山大学 大鐘 雄太	経済学部 准教授	令和5年度	2年

なお、プログラムの中で顕著な活躍が認められた田中秀紀教授、近澤未歩助教、大鐘雄太准教授に、Certificate of Outstanding Achievements が授与された。

3) T-GEEx 企業アソシエート

T-GEEx 企業アソシエートの育成期間は1年以上5年まで設定しているが、令和6年度中の育成終了者はいなかった。

3 育成プログラム

3-1 トランスファラブルスキル

T-GEEx の育成プログラムでは、T-GEEx フェロー、アソシエートが身に着ける様々なトランスファラブルスキルを、6つのコンピテンシー（高度な専門性、協働力、課題発見力、世界の潮流をつかむ力、出口志向感覚、研究推進力）からなる知の「開拓者」スキルフレームワークで整理・分類して設定している。T-GEEx フェロー、アソシエート、企業アソシエートは、スキルブースターモジュールへの参加、研究活動、社会実践活動等を通して、これらのコンピテンシーを向上させる。

令和6年度はスキルブースターモジュールを30回開催した。詳細は表3-1の通りである。

表 3-1 令和5年度に実施したスキルブースターモジュール

年度	開催日	講座等名称	モジュールの分類		協働力	高度な専門性	課題発見能力	世界の潮流をつかむ	出口志向感覚	研究推進力
令和6年度	2024年4月26日（金）15:00～16:00	JST戦略的創造研究推進事業（CREST, さきがけ, ACT-X）戦略セミナー	マネジメントスキル							
	2024年5月24日（金）15:00～16:30	PI育成セミナー 『大学院理系研究室のマネジメントーラボラトリーマネジメントという考え方ー』	マネジメントスキル	コミュニケーション						
	2024年6月18日（火）14:00～15:00	PI育成セミナー 『若手研究者のための科研費攻略セミナー2024』	マネジメントスキル							
	2024年7月16日（火）14:00～15:30	PI育成セミナー 『今すぐ使える資料デザインの法則と技術』	マネジメントスキル	コミュニケーション						
	2024年9月4日（水）14:00～15:30	PI育成セミナー 『大学発ベンチャーの創り方ーベンチャー設立経験談と学内資金調達攻略ー』	社会実践活動							
	2024年9月17日（火）13:30～15:30	PI育成セミナー 『効果的なプレゼンテーションービジュアルデザインとスライド構成のポイントー』	コミュニケーション							
	2024年10月18日（金）14:00～15:30	PI育成セミナー 『メンタリングをキャリアアップに活かす』	コミュニケーション							
	2024年11月26日（火）14:00～15:20	PI育成セミナー 『科学雑誌をつくるーサイエンスをどう伝えるかー』	コミュニケーション	社会実践活動						
	2024年12月10日（火）14:00～15:30	PI育成セミナー 『オープンアクセスを考えるー2025年度即時OA義務化に向けてー』	マネジメントスキル							
	2024年9月5日（木）13:30～15:00	研究者リーダーシップ・プログラム2024 『キャリアについて考える』	ロールモデル研究							
	2024年10月15日（火）13:30～15:00	研究者リーダーシップ・プログラム2024 『自己理解を深め、他者理解・相互理解につなげる』	マネジメントスキル	コミュニケーション						
	2024年11月8日（金）13:30～15:00	研究者リーダーシップ・プログラム2024 『キャリアアップのためのアクションプラン-Step1』	マネジメントスキル							
	2024年12月17日（火）13:30～15:00	研究者リーダーシップ・プログラム2024 『研究者にとってのタイムマネジメント』	マネジメントスキル							
	2025年1月10日（金）13:30～15:00	研究者リーダーシップ・プログラム2024 『キャリアアップのためのアクションプラン-Step2』	マネジメントスキル							
	2025年2月5日（水）13:30～15:00	研究者リーダーシップ・プログラム2024 『自身の強みを生かしてリーダーシップを執る』	ロールモデル研究	ネットワーク構築						
	2024年7月13日（土）14:15～18:30	ロールモデル研究セミナー 『トップリーダーズトーク：ダイドー株式会社 山田貞夫 総帥 x 名古屋大学 杉山直 総長』	ロールモデル研究							
	2025年1月31日（金）12:00～14:00	ロールモデル研究セミナー 『ハーバード新人PIの苦悩と葛藤』	ロールモデル研究							
	2024年6月12日（水）16:30～18:00	岐阜大学One Medicine リサーチマネジメント実践学(基礎)『若手企業研究開発者』① コーゼー研究所スケンケア製品研究室マテリアルサイエンスグループ	ロールモデル研究	ネットワーク構築						
	2024年6月19日（水）14:45～16:15	岐阜大学One Medicine リサーチマネジメント実践学(基礎)『若手企業研究開発者』② リコメディカルイメージング事業センターMNG事業室 臨床開発グループ	ロールモデル研究	ネットワーク構築						
	2024年6月26日（水）14:45～16:15	岐阜大学One Medicine リサーチマネジメント実践学(基礎)『若手企業研究開発者』③ 協和キリン研究本部 研究ユニット 創薬評価G (兼) 研究企画部 研究企画G	ロールモデル研究	ネットワーク構築						
	2024年7月1日（月）14:45～16:15	岐阜大学One Medicine リサーチマネジメント実践学(基礎)『若手企業研究開発者』④ 同仁医薬化工研究開発部門 研究部	ロールモデル研究	ネットワーク構築						
	2024年7月8日（月）14:45～16:15	岐阜大学One Medicine リサーチマネジメント実践学(基礎)『若手企業研究開発者』⑤ 住友ファーマ化学研究ユニット	ロールモデル研究	ネットワーク構築						
	2024年7月17日（水）16:30～18:00	岐阜大学One Medicine リサーチマネジメント実践学(基礎)『若手企業研究開発者』⑥ アステラス製薬 開発研究ディスカバリーインテリジェンス バイオロジクス研究室	ロールモデル研究	ネットワーク構築						
	2024年7月24日（水）14:45～16:15	岐阜大学One Medicine リサーチマネジメント実践学(基礎)『若手企業研究開発者』⑦ 島津製作所 基盤技術研究所 バイオインダストリーユニット	ロールモデル研究	ネットワーク構築						
	2024年9月19日（木）13:00～14:30	岐阜大学セミナー『英語論文被引用数アップの要訣を学ぶ』	マネジメントスキル	マネジメントスキル						
	2024年6月6日（木）13:00～17:4	国際シンポジウム『Nurturing World-Class Researches』	ネットワーク構築	コミュニケーション						
	2024年9月9日（月）9:30～19:00 2024年9月10日（火）9:30～16:00	リトリート合宿企画1：『知の融合』の一步先へ！～未来の社会に研究成果をどう還元していくか～	ネットワーク構築	リトリート						
	2024年9月9日（月）9:30～19:00 2024年9月10日（火）9:30～16:00	リトリート合宿企画2：研究生活やくり相談＆多様な立場からの議論/意見交換会	ネットワーク構築	リトリート						
	2024年12月2日（月）13:00～18:00	研究成果エキシビジョン：『AI時代の教育と研究』	ネットワーク構築	コミュニケーション						
	2025年1月14日（火）10:00～13:00	高等研究院若手大交流会	ネットワーク構築	コミュニケーション						

3-2 e-ポートフォリオ

T-GEEx プログラムへの参加を通じて、育成期間中に6つの知の「開拓者」コンピテンシーがどのように向上していくのかを分析するためのツールとして、T-GEEx フェロー向けに、e-ポートフォリオを開発した。e-ポートフォリオでは、T-GEEx フェローが、①研究活動を通して向上したコンピテンシー、②スキルブースターモジュールの参加を通して向上が期待されるコンピテンシー、③学術メンター・企業アドバイザーとの面談についても記録し、研究活動全般を振り返るためのツールとして使用できるように構築した。令和6年度は、記録方法について見直しを行い、T-GEEx フェローの負担削減のため、②、③に関して入力することとした。

3-3 リトリート合宿

●日時：令和6年9月9日～9月10日（1日目：9時30分～19時、2日目：9時30分～16時）

●場所：ホテルリソル JR ゲートタワーカンファレンス

T-GEEx フェロー、アソシエート、企業アソシエートが、互いの研究内容や研究者像を理解し、近い将来に始動可能な異分野共同研究ユニットの模索および永続的に協力し合える T-GEEx 研究者ネットワークの構築を目指し、リトリート合宿を開催した。本イベントの企画・運営はタスク・フォースとして位置付け、T-GEEx フェロー3名とアソシエート1名、企業アソシエート1名が担った。令和6年度は、企画1「「知の融合」の一步先へ！～未来の社会に研究成果をどう還元していくか～」、企画2「研究生活やりくり相談&多様な立場からの議論/意見交換会」を実施した。

企画1では、将来起こり得る課題や環境変化を予想し、中長期的視点でそれぞれの研究が社会にどのように役に立つのか、役立てるのかをグループで議論し発表した。参加者からの企画1の評価結果から、最優秀賞とパッション賞を決定した（受賞者は、フェロー3名、アソシエート2名、企業アソシエート1名）。

企画2の前半は、大学・企業における研究活動や自身の生活で生じる悩みを共有し、解決策について議論を行った。共有された悩みで多かったものは、タイムマネジメント、コミュニケーション、研究資金の獲得、チームビルディングであった。企画2の後半は、仮想の対立テーマ（例：博士後期課程に進んでほしい先生 vs 博士前期課程で卒業したい学生）について、グループ内でそれぞれの立場に分かれて議論・意見交換を行った。

今年度の参加者は24名（フェロー14名、アソシエート6名、企業アソシエート4名）で、新たに企業アソシエートが参加したが、企業とアカデミアで共感できる部分が意外と多いなど、双方にとって新しい発見があった。また、相互理解が深まり、シーズ共同研究費への提案にもつながった。

3-4 研究成果エキシビション

●日時：令和6年12月2日13時～18時

●場所：名古屋大学 EI 創発工学館 FUJI ホール

研究成果の発信、研究の発展や社会実装に向けた情報収集と情報交換、人脈構築等を実践する機会として、研究成果エキシビションを開催した。本イベントの企画・運営はタスク・フォースで実施し、T-GEEx フェロー3名とT-GEEx アソシエート1名が担当した。令和6年度は、開催テーマとして「AI時代の教育と研究」を掲げ、コンソーシアム内外から約120名に参加いただいた。最初に中部大学の藤吉弘亘教授から「AIと共に生きる時代における教育と研究へのAI活用」というタイトルで特別講演いただき、大規模基盤モデルを活用した生成AIの普及により一般の人々もAIの恩恵を直接享受できる時代になったことが分かり易く解説され、自動運転や代替教員といった難易度の高い活用も現実となりつつあることが紹介された。これに続いて、YLCプログラムからの2演題、企業アソシエートの5演題を含む合計31演題が英語ショートプレゼンテーションで説明され、最後にポスターセッションで活発な意見交換を行った。なお、ベストショートプレゼン賞には横井暁フェロー（名古屋大学）、ベストポスター賞には樋口諒フェロー（名古屋大学）、宇佐見享嗣フェロー（名古屋大学）、東小百合フェロー（岐阜大学）、田村秀希アソシエート（豊橋技術科学大学）が輝いた。

3-5 ロールモデルセミナー

1) トップリーダートーク：ダイドー株式会社・山田貞夫 総帥 x 名古屋大学・杉山直 総長

●日時：令和6年7月13日14時～17時

●場所：ダイドー株式会社ロボット館（名古屋駅）

第3回のロールモデルセミナーは、トップリーダーとして大きな組織を牽引しているダイドー株式会社・山田貞夫 総帥と名古屋大学・杉山直 総長の対談から学ぶ機会を設定した。山田総帥は、戦後の混乱期に機械や装置に欠かせないベアリングやプーリーといった部品の商社として事業基盤を構築し、早い時期から製造現場のオートメーション化の必要性に着眼して、ロボット事業などを含め年間1000億円規模の売上を誇る専門商社を作り上げた卓越した経営者である。今日の成功に繋がった様々な信条についてお話があり、杉山総長との対談や若手研究者からの質疑応答において、研究者の参考になる考え方として「運を大切にする」「人がやらないリスクや華があることをやる」「好きな道に行った方が良い」などが語られた。また、若手研究者に向けて、「独創的なモノを作りたい」「楽しみつつ日本国へ貢献して欲しい」といった期待の言葉があった。

対談の後には、ロボット館に展示されている様々なロボットについて若手社員から丁寧な説明があり、参加者との間で数多くの有意義な質疑応答が交わされた。

2) ハーバード新人 PI の苦悩と葛藤

ハーバード大学医学大学院 飯島 弘貴 (T-GEEx フェロー修了者)

●日時：令和 7 年 1 月 31 日 12 時 15 分～14 時

●場所：名古屋大学 東山キャンパス ナショナルイノベーションコンプレックス

第 4 回のロールモデルセミナーは、令和 4 年 4 月～令和 5 年 9 月まで T-GEEx フェローとして活躍された飯島 弘貴氏に、T-GEEx フェロー時代を含むこれまでの研究キャリアを振り返りつつ、ハーバード大学医学大学院にて PI ポジション獲得に至った経緯（どのような経験・人脈がポジション獲得につながったのか、ポジション獲得に向けて、どのようなことを考え、どのような活動を行ったのかなど）を詳細にご講演いただいた。また、ハーバード大学医学大学院における研究活動・研究状況についてもご紹介いただき、日本の科研費と比較しながら、NIH グラントの特徴、獲得に向けて行った活動などもご説明いただいた。参加者は、研究者を取り巻くアメリカと日本の環境の違いに興味を持ち、ここでしか聞けないような踏み込んだ質問をするなど、活発に情報交換を行った。

3-6 国際シンポジウム

●日時：令和 6 年 6 月 6 日 13 時 30 分～17 時 30 分

●場所：名古屋大学理学南館 坂田・平田ホールおよびネオレックスプレイスセミナールーム

海外から著名な研究者を 2 名お招きし、世界的な研究者の育成について議論を深める国際シンポジウム「Nurturing World-Class Researchers」を開催した。本イベントの企画・運営はタスク・フォースで実施し、T-GEEx フェロー 2 名と T-GEEx アソシエイト 1 名が担当した。

前半は著名な研究者からの特別講演で、お一人目の Yi-Fang Tsay 博士（台湾中央研究院分子生物学研究所）は「My scientific journey with transceptor CHL1 -The stories behind the science-」というタイトルで、植物の窒素栄養代謝で重要な働きをする transceptor の同定や解析に「忍耐」と「不屈の努力」をもって打ち込んできたこられた研究者人生を紹介され、先端研究は危険だけどロマンチックと語られた。また、お二人目の Roger Goodman 博士（オックスフォード大学）は「Early Career Researchers and the University of Oxford」というタイトルで、オックスフォード大学は 2000 年代に大きな大学改革を実施したことで研究力が飛躍的に向上したことや若い研究者が国際的に活躍するために心掛けるべき要点についてお話しされた。

特別講演後は場所を比較的コンパクトなセミナールームに移し、近い距離で両先生と若手研究者とのディスカッションを実施した。日頃、若手研究者が悩んでいる論文の質と量のバランスやポスト獲得など、研究やキャリアアップに関する多くの質問に対し、経験豊かな両先生は一つ一つ丁寧にアドバイスされ、大変有意義な時間となりました。最後に、ネットワーキングの機会として設定した異分野交流会で、T-GEEx 若手研究者、YLC 教員、創発研究者は自己紹介シート使用して大学や企業の関係者と活発に交流し、閉会となった。

3-7 学術メンター・企業アドバイザー

1) T-GEEx フェロー

学術メンターはフェーズ1（初年度）に専門分野に詳しい1人目を設定し、フェーズ2（2年目）から選択している育成トラックを考慮した2人目を追加設定して、ダブルメンタリング体制で実施している。1人目は基本的に実務委員会で決定しているが、2人目は本人希望も考慮しており、国際共同トラックを選択している場合は海外の研究者、学際共同研究トラックを選択している場合は異分野の研究者、産学連携トラックや企業トラックを選択している場合は企業アドバイザーを積極的に設定することを推奨している。令和6年度はT-GEExフェロー19名に対して表3-7-1のように学術メンターおよび企業アドバイザーを配置した。

表3-7-1 T-GEExフェローの学術メンターおよび企業アドバイザー

採用年度	大学 氏名	所属部署 職名	育成トラック	学術メンター1 (大学 所属部署 氏名 職名)	学術メンター2 (大学 所属部署 氏名 職名)	企業アドバイザー (企業名 氏名 職名)
令和3年度	名古屋大学 東 直輝	大学院工学研究科 助教	学際共同研究	名古屋大学 大学院工学研究科 福澤 健二 教授	名古屋大学 大学院医学系研究科 柴山 恵吾 教授 Centre national de la recherche scientifique (仏) Dr. Kei YAMAMOTO (Chargée de Recherche)	—
	名古屋大学 萩尾 華子	高等研究院/大学院生命農学研究科 YLC特任助教	国際共同研究 産学連携	名古屋大学 大学院生命農学研究科 山本 直之 教授	名古屋大学 大学院医学系研究科 和氣 弘明 教授	—
	名古屋大学 屋部 祐季	大学院医学系研究科 准教授	国際共同研究	名古屋大学 大学院医学系研究科 宮田 卓樹 教授	名古屋大学 大学院人文学研究科 周藤 秀幸 教授	—
	名古屋大学 早川 尚志	高等研究院/宇宙地球環境研究所 YLC特任助教	学際共同研究	名古屋大学 宇宙地球環境研究所 星野 亮也 教授	University of Vienna (奥) Dr. Lioba THEIS University Professor	—
	名古屋大学 樋口 諒	高等研究院/大学院人文学研究科 YLC特任助教	国際共同研究	名古屋大学 大学院人文学研究科 川本 悠紀子 准教授	名古屋大学 トランスフォーマティブ生命 分子研究所(WPI-ITbM)	—
	名古屋大学 SU Matthew Paul	高等研究院/大学院理学研究科 YLC特任助教	国際共同研究	名古屋大学 大学院理学研究科 上川内 あづさ 教授	名古屋大学 宇宙地球環境研究所 伊藤 好孝 教授	東レ株式会社 新事業開発部門 滝澤 聡子 主幹
	名古屋大学 宮武 広直	素粒子宇宙起源研究所 准教授	国際共同研究	名古屋大学 素粒子宇宙起源研究所 市来 淳興 教授	—	—
	名古屋大学 横井 院	医学部附属病院 病院助教	—	名古屋大学 大学院医学系研究科 梶山 広明 教授	—	—
	岐阜大学 平島 一輝	高等研究院/大学院連合創薬医療情報研究科 G-YLC特任助教	国際共同研究 学際共同研究	岐阜大学 応用生物科学部 森 崇 教授	Colorado State University (米) Dr. Takamitsu KATO Associate Professor	—
令和4年度	名古屋大学 BELLEGARDE Fanny	高等研究院/大学院生命農学研究科 YLC特任助教	国際共同研究	名古屋大学 大学院生命農学研究科 榎原 均 教授	Institute for Plant Sciences of Montpellier (仏) Dr. Antoine MARTIN Group Leader	—
	名古屋大学 星野 藍子	大学院医学系研究科 講師	国際共同研究	名古屋大学 大学院環境学系研究科 上村 泰希 准教授	Monash University (豪) Dr. Ted BROWN Professor	—
	名古屋大学 木村 康裕	大学院工学研究科 助教	起業	名古屋大学 大学院工学研究科 徳 悠貴 准教授	—	浜松トニクス・コーポレート・ ベンチャー・キャピタル株式会社 松井 永幸
	名古屋大学 辻河 高陽	高等研究院/医学部附属病院 YLC特任助教	国際共同研究 産学連携	名古屋大学 大学院医学系研究科 勝野 雅央 教授	名古屋大学 環境医学研究所 萩 朋男 教授	—
	岐阜大学 東 小百合	高等研究院/連合創薬医療情報研究科 G-YLC特任助教	国際共同研究	岐阜大学 連合創薬医療情報研究科 池田 将 教授	岐阜大学 工学部化学・生命工学科 上田 浩 教授	—
令和5年度	名古屋大学 伊吉 祥平	高等研究院/大学院医学系研究科 YLC特任助教	学際共同研究	名古屋大学 大学院医学系研究科 梶山 広明 教授	—	—
	名古屋大学 上野 藍	大学院工学研究科 講師	学際共同研究	名古屋大学 大学院工学研究科 長野 方星 教授	—	—
	名古屋大学 宇佐見 享嗣	高等研究院/トランスフォーマティブ生命分子研究所 (WPI-ITbM) YLC特任助教	学際共同研究 産学連携	名古屋大学 トランスフォーマティブ生命 分子研究所(WPI-ITbM) 吉村 崇 教授	—	—
	名古屋大学 李 乃瑋	高等研究院/大学院人文学研究科 YLC特任助教	国際共同研究	名古屋大学 大学院人文学研究科 齋藤 文俊 教授	—	—
	岐阜大学 板橋 紀節	高等研究院/工学部大学院自然科学技術研究科 G-YLC特任助教	国際共同研究	岐阜大学 工学部 佐野 崇俊 准教授	—	—
	—	—	—	—	—	—

2) T-GE_x アソシエート

連携学術機関からの要望により、令和5年度からはT-GE_x アソシエートの希望者にも学術メンターを1名設定できることとした。令和6年度は5つの連携学術機関の6名T-GE_x アソシエートと1つの連携企業の1名のT-GE_x 企業アソシエートから希望があり、その要望を考慮した上で表3-7-2のように学術メンターを配置した。

表 3-7-2 T-GE_x アソシエートの学術メンター

採用年度	学術機関 氏名	所属部局 職名	学術メンター (大学 所属部局 氏名 職名)
令和4年度	中部大学	生命健康科学部	中部大学 工学部
	新谷 正嶺	講師	藤吉 弘巨 教授
	豊橋技術科学大学	大学院工学研究科	名古屋大学 大学院情報学研究科
令和5年度	田村 秀希	助教	平井 真洋 准教授
	三重大学	教育学部	名古屋大学 大学院医学系研究科
	市川 俊輔	准教授	中山 奈津紀 准教授
	三重大学	大学院工学研究科	名古屋大学 大学院情報学研究科
	奥原 俊	講師	三輪 和久 教授
令和6年度	株式会社ネオレックス	技術グループ 開発チーム	名古屋大学 大学院情報学研究科
	杉原 進哉	Advanced Senior Engineer	井手 一郎 教授
	豊橋技術科学大学	大学院工学研究科	名古屋大学 大学院工学研究科
	田尻 大樹	助教	原 進 教授
	名城大学	農学部	名古屋大学 大学院生命農学研究科
	黒川 裕介	助教	榊原 均 教授

3) 学術メンターに対するアンケート調査

令和6年6月に、T-GE_x フェローの学術メンター30名を対象にT-GE_x フェローの活躍や成長した能力に関するアンケート調査を実施し、21名から回答が得られた。

〈T-GE_x フェローの活躍度〉

全体的にT-GE_x フェローの活躍度は優れており、図3-7-1に示した通り、国内、国際ともに「極めて優れている（5点）」と「優れている（4点）」が全体の9割程度を占めた。但し、国内では「極めて優れている（5点）」が約4割であるのに対し、国際では約2割に留まっており、国際的にも高いレベルで活躍できるよう育成する余地があることが明らかとなった。

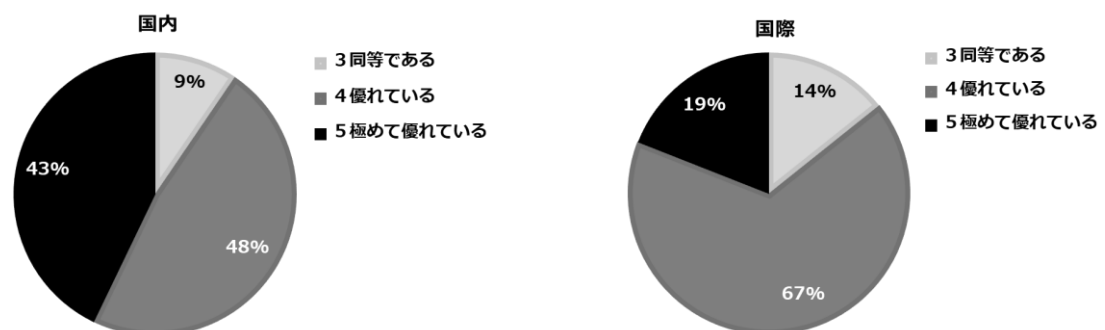


図 3-7-1 当該分野における T-GE_x フェローの活躍度

〈1年間で大きく成長した能力〉

令和6年度1年間で大きく成長した能力（知の「開拓者」コンピテンシー、最大3個まで）に関しては、図 3-7-2 に示した通り、「研究推進力」が他と比較して高く、研究目標を達成するために研究活動のマネジメント力が向上したフェローが多かったものと考えられた。また、昨年度よりも少し低下したものの「協働力」も高い値を示したことから、対面イベントを切っ掛けに協働の機会や意識が増大したからではないかと推測している。この他、「世界の潮流を掴む力」が令和4年度から着実に伸長しており、令和6年度に実施した国際シンポジウムなど国際力強化の施策にポジティブな効果があったものと思われた。

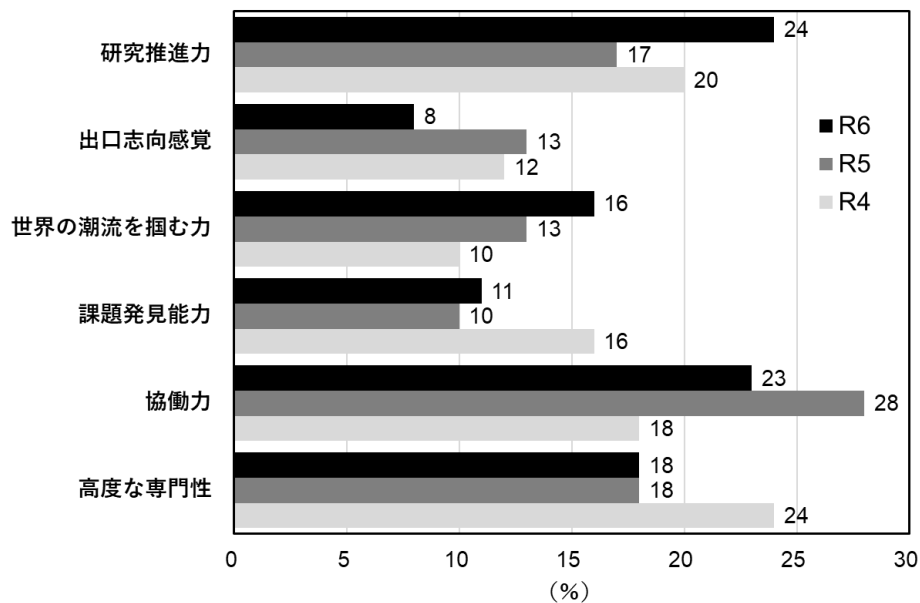


図 3-7-2 大きく成長した能力（知の「開拓者」コンピテンシー）

3-8 スタートアップ研究費

フェーズ 1（初年度）における自立的研究環境構築支援の一つとして、本事業で挑戦したい世界的課題の解決を目指す研究について、1 名につき 50 万円を上限に、自身のニーズに合わせて使用できる研究費の支援を行った。具体的には、令和6年度に採用した T-GEEx フェロー5 名に対して、計 250 万円を支給した。

3-9 テーラーメイド型研究費

T-GEEx フェローが 5 つの育成トラック（国際共同研究、学際共同研究、産学連携、起業、拡張）から進みたいトラックを選択し、本事業で挑戦する世界的課題の解決を目指す研究について、フェーズ 2（2 年目）からの協働発展力養成の支援の一つとして、その研究費を支給した。令和6年度は、1 名につき 300 万円/年を上限に、T-GEEx フェローから提出されたテーラーメイド型研究費申請書を実務委員会（選考・評価委員会）で審査の上、配分額を決定した。具体的には、令和5年度までに採用した T-GEEx フェロー14 名に対して、計 3,430 万円を支給した。

3-10 シーズ共同研究費

T-GEEx フェローと T-GEEx アソシエート、T-GEEx 企業アソシエートとの共同研究あるいは共同事業を推奨し、T-GEEx フェローがチームを形成して申請した課題のうち、実務委員会（選考・評価委員会）の審査により採択されたものについて、研究費の支援を行った。

令和 5 年度に募集の機会を 2 回（7 月、10 月）に増やして利便性の向上を図った結果、応募件数増加したことから、令和 6 年度も年 2 回の募集を行った。今年度は初めて T-GEEx フェローと企業アソシエートとの共同研究の応募があり、本事業内で産学連携の共同研究に発展しうる活発な交流が出来ていることが窺えた。審査により以下の合計 4 件の課題（1 回目 3 件、2 回目 1 件）を採択し、計 200 万円を支給した。

<採択課題 1>

- 【研究代表者】 T-GEEx フェロー 伊吉 祥平
名古屋大学高等研究院/大学院医学系研究科 YLC 特任助教
- 【共同研究者】 T-GEEx フェロー 上野 藍
名古屋大学大学院工学研究科 講師
- 【研究課題名】 非侵襲的女性ホルモン定量システムの開発と生殖医学への応用

<採択課題 2>

- 【研究代表者】 T-GEEx フェロー 宇佐見 享嗣
名古屋大学高等研究院/トランスフォーマティブ生命分子研究所 YLC 特任助教
- 【共同研究者】 T-GEEx アソシエート 市川 俊輔
三重大学教育学部 准教授
外部共同研究者 中山 友哉
名古屋大学大学院生命農学研究科 特任助教
- 【研究課題名】 共生細菌により制御される動物の生体応答機序の解明

<採択課題 3>

- 【研究代表者】 T-GEEx フェロー 樋口 諒
名古屋大学高等研究院/大学院人文学研究科 YLC 特任助教
- 【共同研究者】 T-GEEx 企業アソシエート 松田 健郎
トヨタ自動車株式会社 主任
- 【研究課題名】 XR コンテンツを用いた建築教育の定量的評価のための基礎的研究

<採択課題 4>

- 【研究代表者】 T-GEEx フェロー 星野 藍子
名古屋大学大学院医学系研究科 講師
- 【共同研究者】 T-GEEx アソシエート
市川 俊輔 三重大学教育学部 准教授
- 【研究課題名】 腸内細菌叢解析による抑うつ予防と解明

3-11 国際力強化支援

本事業初の試みとして、近年の為替変動による円安や物価高の影響による T-GEEx フェローの国際的な研究活動にかかる経済的制約の緩和を目的として、希望する T-GEEx フェローに「国際力強化支援」として、1 名につき上限 30 万円の研究費支援を行った。

本支援は、スタートアップ研究費やテラーメード型研究費とは異なり、(1)国際誌への論文投稿に係る費用、(2)外国出張に係る費用、(3)国際ワークショップ等のオーガナイズに伴う費用といった、国際的な研究活動に不可欠な支出に限定して支援を行うものである。今年度は 10 月末に対象となる T-GEEx フェロー 18 名に希望調査を行い、実務委員会（選考・評価委員会）で用途を審査したうえ、希望者 14 名に計 408 万円を支給した。

<支援対象 1>国際誌への論文投稿に係る費用

国際的なジャーナル（Q1 ジャーナル、トップジャーナル投稿に係る費用が望ましい）への論文投稿料、論文掲載料、英文校閲費用

⇒7 名支援

<支援対象 2>外国出張に係る費用

国際共同研究の実験・打合せや国際学会に参加するためのフェロー本人の外国旅費

⇒7 名支援

<支援対象 3>国際ワークショップ等のオーガナイズに伴う費用

外国人研究者の招へい旅費・謝金、会場費等

⇒希望者無し

3-12 その他支援

T-GEEx フェローのうち本事業で挑戦したい世界的課題の解決を目指す研究に不可欠な研究スペース支援を希望し、スペースの確保ができた者に対して、1 名につき 50 m²を上限に研究スペース利用料を措置している。令和 6 年度は 5 名のフェローに対して支援を行った。

3-13 育成プログラムに関するアンケート調査

令和6年度に実施した各種スキルブースターモジュールや支援に関して、T-GEEx フェロー、T-GEEx アソシエート、T-GEEx 企業アソシエートを対象に無記名で満足度のアンケート調査を実施した（回答数33）。表3-13に示した通り、全て5段階評価（1：非常に不満 2：不満 3：普通 4：満足 5：非常に満足）で4以上と良好であることが確かめられた。

表 3-13 令和5年度に実施した各種育成プログラムに関するアンケート調査結果

年度	セミナー、イベント、環境支援等の名称	平均点
令和6年度	国際力強化支援	4.9
	タスク・フォース（イベントの企画・運営）	4.8
	テラーメイド型研究費	4.7
	シーズ共同研究費	4.7
	スタートアップ研究費	4.6
	URAによる支援	4.6
	学術メンター・企業アドバイザーによるメンタリング	4.6
	名古屋大学の共通機器・図書利用	4.5
	国際シンポジウム	4.4
	ロールモデル研究セミナー	4.4
	リトリート合宿	4.4
	研究成果エキシビション	4.3
	PI育成セミナーシリーズ	4.1
	研究者リーダーシップ・プログラム シリーズ	4.0

4 モニタリング

4-1 採用した T-GEEx フェローの属性一覧

令和 6 年度に採用した T-GEEx フェローは 5 名で、事業開始からの合計は 24 名となった。その属性は表 4-1 に示した通りで、全体の平均年齢は 34.3 歳、任期付きの助教（即ち、特任助教）が 75%と育成の中心となっている。また、女性比率は 38%と比較的高く、海外国籍も 14%採用できている。

表 4-1 令和 6 年度までに採用された T-GEEx フェローの属性（採用時）

		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	合計
採用者数（人）		8	6	5	5	24
性別	女性（人）	2	1	3	3	9
	男性（人）	6	4	2	2	14
	非該当（人）	0	1	0	0	1
国籍	日本（人）	7	6	4	4	21
	日本以外（人）	1	0	1	1	3
所属大学	名古屋大学（人）	8	5	4	4	21
	岐阜大学（人）	0	1	1	1	3
職位	准教授（人）	1	0	0	0	1
	講師（人）	0	0	1	1	2
	助教（人）	7	6	4	4	21
任期	無（人）	2	1	2	1	6
	有（人）	6	5	3	4	18
平均年齢（歳）		33.1	33.5	35.0	36.2	34.3

4-2 T-GEEx フェローの育成トラック選択と目標達成状況

令和 6 年度までに採用した T-GEEx フェローの育成トラック選択状況は、表 4-2 に示した通りである。「国際共同」或いは「学際共同」を選択するフェローが約 8 割を占めており、基礎研究を志向する若手研究者が多い状況である。一方、研究成果の社会実装を目指す「産学連携」を選択した T-GEEx フェローは 2 割程度で推移しているものの、「起業」を選択するフェローは令和 5 年度に採用した 1 名に止まっている。

表 4-2 T-GEEx フェローの育成トラック選択状況

		育成トラックの選択（%）							拡張 （複数選択率）
		1個				2個		3個	
育成期間	人数	国際共同	学際共同	産学連携	起業	国際共同 学際共同	学際共同 産学連携	国際共同 学際共同 産学連携	
1 年目	24	25	25	4	4	25	4	13	42
2 年目	15	20	13	7	0	47	0	13	60
3 年目	9	22	11	11	0	44	0	11	56
4 年目	8	25	13	13	0	38	0	13	50

表 4-3 に選択した育成トラックに紐づく主要目標の達成者数および割合を示した。総合的な達成割合（育成トラックの主要目標を 1 件以上達成したフェローの割合）は、育成期間が長くなるに従って上昇し、4 年目には 100%に達した。主要目標別に分析すると、外部競争資金の獲得や国際的な有力学術雑誌（Q1 ジャーナル）における論文受理 2 件と比較して、民間企業との共同研究や学術コンサルティング契約、民間企業との共同特許出願といった目標は達成するまでに時間を要しており、難易度が高いことが示唆されている。

表 4-3 T-GEEx フェローの育成トラックに紐づく主要目標の達成率（積算）

		育成トラックに紐づく主要目標の達成者数 ※括弧内は割合（%）						
育成期間	人数	全て 総合	国際共同 学際共同		産学連携		起業	
			Q1ジャーナル 2 報以上	外部競争 資金獲得	企業からの 資金獲得	企業との 共同出願	起業コンテスト 表彰	起業関連 資金獲得
1 年目まで	24	13 (54)	3 (14)	11 (50)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
2 年目まで	15	11 (73)	2 (14)	9 (64)	1 (33)	0 (0)	-	-
3 年目まで	9	8 (89)	4 (50)	6 (75)	1 (50)	1 (50)	-	-
4 年目まで	8	8 (100)	5 (71)	6 (86)	1 (50)	1 (50)	-	-

4-3 T-GEEx フェローの研究成果の創出状況

T-GEEx フェローの採用以降の研究成果創出状況（1 人当たりの平均値）を表 4-4 に示した。成果としては、学術論文、招待講演、受賞、プレスリリース、マスコミ報道および企業との共同研究等に注目している。学術論文に関連する査読付き原著論文主著数と国際共著数は、育成期間が増加するにしたがって緩やかに増加する傾向が認められている。また、招待講演についても国際学会と国内学会の両方で増加が観察されている。これらのことから、着実に国際共同研究が実施され、国際的に注目される研究成果が創出できているものと捉えている。一方、受賞、プレスリリース、マスコミ報道、企業との共同研究等については、各年の変化が大きく、経年的な変化を推測することは困難な状況となっている。T-GEEx フェローの研究分野の幅が広く、多様性も大きいため、引き続き、フェローの人数や年度を拡大して数値変化をモニタリングしていく必要がある。

表 4-4 T-GEEx フェローの研究成果創出状況

	査読付き 原著論文 主著	国際共著 論文	招待講演 (国際)	招待講演 (日本)	受賞	プレス リリース	報道 (新聞)	報道 (TV)	企業との 共同研究等
1 年目	1.2	2.3	0.1	0.9	0.6	0.4	0.2	0.1	0.1
2 年目	1.2	2.3	0.8	0.9	0.3	0.5	0.7	0.4	0.1
3 年目	2.0	3.7	1.4	1.4	0.7	0.4	0.4	0.0	0.0
4 年目	2.0	3.5	1.4	1.4	1.1	0.4	0.5	0.4	0.4

5 運営体制

5-1 実施機関

1) 実施体制

本事業の代表機関は名古屋大学、共同実施機関は岐阜大学で、令和6年度に変更は無かった。

2) 運営関係者

令和6年度の変更点は表5-1に示した通りである。

表5-1 運営関係者に関する令和6年度の変更点

	大学	職名		氏名	変更日および事項
事務局	岐阜大学	研究推進部研究推進課	産学官連携係 係長	中村 大吾	令和6年 9月30日 (転出)
	岐阜大学	研究推進部研究推進課	産学官連携係 係長	内田 智也	令和6年10月 1日 (転入)
	岐阜大学	研究推進部研究推進課	産学官連携係 主任	川井 里紗	令和6年 6月30日 (転出)
	岐阜大学	研究推進部研究推進課	産学官連携係 主任	後藤 由季	令和6年 7月 1日 (転入)

5-2 連携機関

1) 連携体制

令和6年度の連携機関の変更点は表5-2に示した通りである。

2) 事業推進委員

令和6年度の連携機関の事業推進委員に関する変更点は表5-2に示した通りである。

表5-2 事業推進委員に関する令和6年度の変更点

連携学術機関	事業推進委員 (所属、職名、氏名)	変更日および事項
国立大学法人豊橋技術科学大学	副学長 (研究力強化担当副学長)、滝川 浩史	令和6年10月18日 委員交代
連携企業		
太陽化学株式会社	ナチュラリングリディエント事業部 研究開発G、グループリーダー、大久保 泰宏	令和6年4月 1日 委員交代
トヨタ自動車株式会社	先進技術統括部技術戦略企画室、主幹、志佐 倫子	令和6年4月 1日 委員交代
ホーユー株式会社	総合研究所、副所長、北野 宏樹	令和6年9月 1日 新規加入
東海光学株式会社	脳科学推進室、室長、鈴木 雅也	令和6年9月25日 新規加入
ラクオリア創業株式会社	研究企画部、部長、村川 正男	令和7年1月 1日 委員交代
浜松ホトニクス株式会社	中央研究所第3研究部、部長、井上 卓	令和7年3月 1日 新規加入
Beyond Next Ventures 株式会社	執行役員、橋爪 克弥	令和7年3月31日 退会
国際協力関連連携機関		
独立行政法人国際協力機構 (JICA)	JICA中部センター所長、上町 透	令和6年4月1日 委員交代

5-3 委員会等

5-3-1 知の「開拓者」コンソーシアム総会

- 日時：令和 7 年 3 月 17 日 16 時～18 時（情報交換会 18 時 10 分～19 時 30 分）
- 参加者：統括責任者、実施責任者、共同実施責任者、プログラムマネージャー（PM）、
実務委員会委員、連携機関（学術機関、企業、国際協力）の事業推進委員、
外部評価委員（国内）、事務局（教員、URA、事務関係者）
- 場所：名古屋大学環境総合館レクチャーホール
- 会議様式：ハイブリッド

PM より令和 6 年度の事業実績全般の説明があった後、担当者より 3 つのトピックスが報告された（①リトリート合宿：名古屋大・宇佐見特任助教、②研究成果エキシビション：名古屋大・樋口特任助教、③国際シンポジウム：名古屋大・Matthew Paul Su 特任助教）。さらに PM より、令和 6 年度の活動の改善点を踏まえ、令和 7 年度の事業計画の要点や令和 7 年度 T-GEEx フェロー、T-GEEx アソシエート、T-GEEx 企業アソシエートの採用状況について説明があり、活発な質疑応答、意見交換が行われた。

5-3-2 事業推進委員懇談会

- 日時：令和 6 年 12 月 2 日 11 時 30 分～12 時 30 分
- 参加者：プログラムマネージャー（PM）、実務委員会委員、
連携機関（学術機関、企業、国際協力）の事業推進委員、
事務局（教員、URA、事務関係者）
- 会議様式：対面

連携学術機関である名城大学より、T-GEEx 事業への独自の取り組み状況について資料に基づき紹介があり、質疑応答が行われた。また、事前に 4 社の連携企業を対象に実施した T-GEEx 企業アソシエートに関するヒアリングの内容が PM より情報共有され、参画状況や負担、より積極的にプログラムへ参加するための工夫などについて活発な意見交換が行われた。

5-3-3 運営協議会

- 日時：令和 7 年 2 月 27 日 10 時～11 時 30 分
- 参加者：実施責任者、共同実施責任者、プログラムマネージャー（PM）、実務委員会委員、
事務局（教員、URA、事務関係者）
- 会議様式：オンライン

報告事項として、PM より令和 6 年度の事業実績と令和 7 年度採用の T-GEEx フェロー、T-GEEx アソシエート、T-GEEx 企業アソシエートについて説明があり、意見交換を行った。また、令和 7 年度の事業計画の要点、令和 6 年度「知の『開拓者』コンソーシアム総会』のプログラムに関して審議を行い、承認された。

5-3-4 実務委員会

- 頻度：年間 11 回（不定期、メール審議を含む）
- 参加者：プログラマネージャー（PM）、実務委員会委員、事務局（教員、URA、事務関係者）
- 会議様式：オンライン

実務委員会では、事業運営に関する重要事項について協議した。実務委員会の中に設置したプログラム開発検証委員会においては、例年通り、トランスファラブルスキル向上のための各種セミナーやイベント等のスキルブースターモジュール開発を協議し、加えて令和 7 年度以降の学術メンター制度の変更について時間をかけて議論した。また、選考・評価委員会においては、T-GEEx フェロー、T-GEEx アソシエート、T-GEEx 企業アソシエートの募集・選考を行うと共に、育成期間 3 年が経過した T-GEEx フェローの中間評価について協議した。この他、選考・評価委員会では競争的資金のテーラーメイド型研究費、シーズ共同研究費、国際力強化支援の審査等も実施した。

5-3-5 名大-岐大連携会議

- 頻度：月 1 回（定期）
- 参加者：プログラマネージャー（PM）、実務委員会委員、事務局（教員、URA、事務関係者）
- 会議様式：オンライン

代表機関の名古屋大学と共同実施機関の岐阜大学の間の情報共有や意見交換をタイムリーかつ円滑に実施するため、令和 4 年度より名大-岐大連携会議を設置している。連携機関拡充を含めた運営体制の改善、各種育成プログラムの充実化、予算使用状況の確認、各種予定の共有などを行い、率直な意見交換を実施した。

5-3-6 定例会議

- 頻度：週 1 回（定期）
- 参加者：プログラマネージャー（PM）、名古屋大学の実務委員会委員、名古屋大学の事務局（教員、URA、事務関係者）
- 会議様式：オンライン

事業運営上の課題抽出と対応をスピーディーに行うため、令和 4 年度から代表実施機関の名古屋大学に定例会議を設置している。育成対象者の育成計画の策定から運営上のスケジュール調整に至るまで、事業運営に関する様々な課題をタイムリーに抽出し、計画的な対応に向けた意見交換を行った。

5-4 外部評価委員および外部評価委員会

令和 4 年度に決定した表 5-4 に示した 7 名の外部評価委員（学術関係者 5 名（うち海外 2 名）、企業関係者 2 名）について、令和 6 年度も引き続きご就任いただいた。「研究成果エキシビション」や「知の『開拓者』コンソーシアム総会」等をご案内し、オンラインでご参加いただいた委員からは運営の改善等に関してアドバイスをいただいた。

表 5-4 外部評価委員会委員

氏名	国	所属	職名
財満 鎮明	日本	名城大学	教授
安藤 隆穂	日本	名古屋大学	名誉教授
岩淵 明	日本	岩手大学	名誉教授
Roger Goodman	英国	オックスフォード大学	教授
Yi-Fang Tsay	台湾	台湾中央研究院分子生物学研究所	卓越フェロー
我妻 三佳	日本	本田技研工業株式会社	取締役
村瀬 賢芳	日本	日鉄ケミカル&マテリアル株式会社	取締役常務執行役員

また、令和 5 年度は、事業開始後初めてとなる外部評価委員会を以下のように実施した。

- 日時：令和 6 年 6 月 7 日 9 時 00 分～12 時 45 分
- 場所：名古屋大学ナショナルイノベーションコンプレックス（NIC）大会議室
- 参加者：外部評価委員、統括責任者、実施責任者、共同実施責任者、プログラムマネージャー（PM）、実務委員会委員、事務局（教員、URA、事務関係者）、T-GEEx フェロー 4 名（外部評価委員との面談のみ参加）
- 会議様式：基本オンサイト（1 名のみオンライン）

外部評価委員会では、PM より事業開始後約 2 年半の取り組みの状況を外部評価委員に説明し、意見交換を行った。その後、外部評価委員と T-GEEx フェローのみの面談、外部評価委員のみの意見交換を経て、最後に外部評価委員会からの総評および意見交換を実施した。

総評では以下のようなコメントをいただいた。

- ・全体として、プログラムは計画に沿って順調に運営されている。
- ・優秀な若手研究者が中心となって、産学が協力して推進していくことは大変意義深い。
- ・計画通りに若手研究者が採用され、キャリアアップや成果創出など育成状況も良好である。
- ・教授陣やスタッフが尽力しており、参加者のプログラムに対する満足度や評価も高い。

また、以下のようなアドバイスもいただいた。

- ・フェロー数の増加に伴ってテラーメード研究費が減少しているが、予算増額（確保）が成功に極めて重要である。
- ・フェローの所属、研究分野、育成トラック毎に偏りが見られる。
- ・学内外で本プログラムの認知度を高めることが必要である。
- ・国際的な存在感を発揮して評価が得られるよう、英語プレゼンテーション能力の向上などの取り組みがあると良い。
- ・育成対象者の採用数を拡大して欲しい。
- ・成果創出と活躍について継続的にフォローしていくことが重要である。

6 寄附金

令和6年度にはダイドー社から、名古屋大学がこれまで構築してきた協力関係を引き継ぐ形で、多額の寄附金をいただくことができた。また、ウェブサイトには寄附金募集のページを創設し、研究成果エキシビションなどの機会に、寄附の募集を広く呼びかけるなどの試みを行なっている。